# 骨髄浸潤を認めた混合型古典的ホジキンリンパ腫の 1 例

◎伊藤 千夏[1)]、大塚 のぞみ[1)]、加藤 麻美[1)]、川村 辰也[1)]、寺田 しのぶ[1)]、南谷 健吾[1)]
社会医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院[1)]

【はじめに】混合型古典的ホジキンリンパ腫（Mixed cellularity classical Hodgkin lymphoma:MCCHL）は、古典的ホジキンリンパ腫（Classical Hodgkin lymphoma:CHL）の 20～25%を占めており、その中でも骨髄浸潤を認める症例は 10%と少なく、骨髄検査にて浸潤細胞を認めることは稀である。今回我々は、骨髄浸潤を認めた MCCHL を経験したので報告する。

【症例】80 歳代男性。1 ヵ月前から発熱、咳を認め近医受診、胸部 CT の依頼検査で当院紹介受診。胸部 CT にて左頸部リンパ節と縦隔リンパ節に腫大を認め、悪性リンパ腫疑いにて血液内科紹介となった。

【検査結果】当院受診時の検査結果は、AST 79 U/L、ALT 74 U/L、ALP 159 U/L、LDH 276 U/L、CRP 8.07 mg/dL、WBC 3600 /μL、RBC 424 万 /μL、Hb 11.7 g/dL、Ht 37.0 %、PLT 13.8 万 /μL、可溶性 IL-2R 7342 U/mL。後日、左頸部リンパ節生検、骨髄検査が行われた。

【リンパ節組織診】既存の濾胞構造は消失し、繊維化、結節性増生は乏しい。背景は小型～大型の多彩なリンパ球から構成されており、明瞭な核小体を有する単核もしくは多核の大型異型細胞を散在性に認めた。大型異型細胞は CD3、CD20 陰性、CD30、Pax5 陽性であり、MCCHL と診断された。

【骨髄像】骨髄は正形成。造血細胞は 3 系統とも分化傾向あり。細胞質好塩基性、一部核小体を認める単核もしくは多核の大型異型細胞を認め、MCCHL の骨髄浸潤が疑われた。

【骨髄クロット組織診】単核もしくは多核の大型異型細胞を認め、免疫染色では CD3、CD20 陰性、CD30、Pax5 陽性であり、MCCHL の骨髄浸潤と診断された。

【考察】骨髄で見られた大型細胞は、免疫染色結果の一致によりリンパ節生検で見られた MCCHL 細胞の骨髄浸潤であると考えられた。ホジキンリンパ腫（Hodgkin lymphoma: HL）の骨髄浸潤は稀であるが、骨髄像にて多彩な背景に大型細胞を認めた際は、HL の浸潤も念頭において観察することが必要であると感じた症例であった。

名古屋記念病院　臨床検査部　052-804-5729